

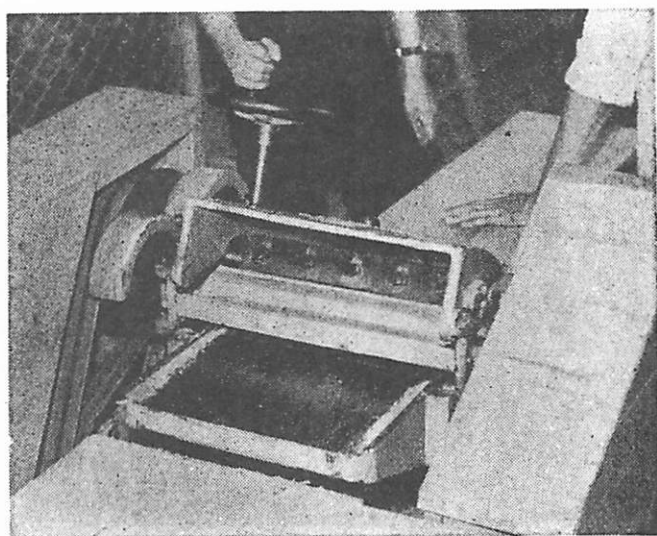
# 教育と産業

産業教育研究連盟

第五卷 第四号

技術教育の曲り角.....	1
教育内容の広さと 深さをどういかすか.....中村邦男...	3
新・指導要領をどううけとめるか.....	6
文部省学習指導書第1群案を読んで..... .....研究部	
文部省解説資料(第2群・第5群)	
職・家・め・い・そ・う.....	25

4 月



自動カンナの操作

## 新学年に寄せて

少古い話で恐縮だが、雑誌「世界」の三月号に「日本人と偏見」という小特集があった。その中で伊豆公房氏が、「偏見」を育成せよ、というパラドキシカルな題で一文を寄せこんなことをいつている。「正見と偏見といったような機械的対立を早く克服して、人間の認識活動の一状態としてとらえる弁証法的方法が確立されなければならぬと思うわけである。健康優良児などというのは、エセ合理主義が思いついたもつとも馬鹿氣た健康観の一つだが、同じような錯誤が認識活動の理解の上にも存在しているのである。健康優良児的な正しい認識の幻想が、保守的教育理論の正当性の裏づけになつてゐるのだし、同時に進歩的教育理論を卑俗な啓蒙主義の泥沼にとじこめる原因にもなつてゐるのだと思う。」うんぬん。

× × × ×

考えてみればこの国は、優良農民や優良産業人をさかんに表彰し、時たま発明発見家を賞讃し、しばしば文字通りの健康優良児や「子ども銀行」の選手たちに賞状を下さつて

いる。地域や学校での表彰式にいたつては、大変なものだろう。町や通りには各種の募金運動や清掃作業に子どもたちをかりたせせる。「いいことなんだよ」「感心なものだ」と親も教師も思い、子どもたちにもそののみこませようとする。表彰された農民や子どもはなおいつそうの奮励を自発的に誓い、他の農民や子どもたちにはいつそうのアセリかアキラメか、または反抗をいだかせる。

督励―表彰―奮励の三角地帯の中は、誓いとアセリとアキラメと反抗のプールである。日本の社会と教育の世界は、このプールでいづばいだ、地域や学校そのものが、ほかならぬこのプールであることを念じ、ほこつていづばいもあるだろう。

× × × ×

日本人一般はともかく、私たち教師のばあいを反省してみよう。ここにいう健康優良児的な物の見方考え方は、私たちの児童観に割合と抵抗なく、不思議なほどはやく定着してはいないか。若い大学出の新任教師が、一年たてば、もうすっかりこの児童観で固まつてしまふ。この児童観をはやく身につければ、それだけはやく学習指導も学級経営も、したがつて教師生活も、安ノンになるという考え

方がある。あとは「この頃の子どもは……」「どうも困つたことだ」「何とか処置しなければ」などといつていければよいし、しよつちゅう呼びつけておどしたり、すかしたりですむ。時には「愛のムチ」をふるう。そのためにまた「いい子もいるんだぞ、お前とはちがうぞ」といつた優等生の表彰が必要となる。

× × × ×

ひるがえつて技術教育ではどうか。ここでは不器用器用、オ世辭追従、誓い・アキラメ・アセリ、反抗と忍従などはまず問題とならない。ということとは、正しい技術指導教育こそ、何よりも客観的合理的・實際的具体的であることをねらうからである。正しい原理と法則にもつた正しい技術教育に関するかぎり、正見をおおりにたてることも偏見をとつちめる必要もない。小手さきがきき、頭だけで考え、生産・労働・技術を軽視するところから、健康優良児的な認識のし方がでてくるのだと、そういう切つてはいいすぎだろうか。ただし、技術教育を通じて物の見方考え方や人間関係のあり方を民主的なかたちにかえていくにはどうしたらよいかは、私たちがせおつていくべき課題である。

(矢)

・高田集会へそなえる研究のために・・・

# 教育内容の深さと広さをどうおさえるか

——むぎの栽培を例として——

中村邦男

職業・家庭科の指導に当つては、「その教育内容をどのように選択するか」ということとともに「その範囲をどの程度にするか」が問題であろう。「教育内容をどうするか」は指導要領その他で一応明らかにされている（栽培・飼育についてはあまり明かではない）が、「技術や知識の広さ・深さ」についてはほとんどしめされていない。しかもこの「広さと深さ」こそ実際の学習指導では極めてたいせつなことである。それによつて、一つのプロジェクトに要する学習時間や学年配当もきまれば、学習形態もきめられるはずである。ところが、従来は単に習慣的に羅列的にいろいろな技術や知識が学習内容としてあげられてきたに過ぎず、これを厳しく検討することが少なかつたようである。

一つの作物や家畜が教材としてとりあげられるばあい、もちろんその意義が一応考えられるのであるが、農耕の項目からは「むぎ」園芸の項目からは「花」と「トマト」などと割合に簡単な理由から「むぎ」や「トマト」がとりあげられていたようである。このような教材のとりあげ方でなく「作物の形態の理解のためには」「農業経営の理解のためには」また「農業労働の理解のためには」「栽培技術改善の立場からは」と言うような視点から教材を選定し、その選定の立場に重点をおいて指導することによつて、技術や知識の範

囲を規定することはできないものだろうか。たとえば「作物の栽培環境や栽培方法と作物の形態」についての理解のためには「トマト」や「かぼちや」「作物生理や栽培技術の改善」の理解のためには「なす」や「白菜」「農業労働」の理解のためには「いね」「むぎ」と言うような立場で教材を選定することは誤りであろうか。このような考えから「むぎ」の栽培についての教育内容を考えることにしよう。

## 「むぎ」の栽培

学習期間 第二学年第二学期から第三学年第一学期

### (一) 単元設定の意味

わが国の農業において「労働の生産性の低さをどのようにして解決するか」と言うことは一つの課題である。農業労働の問題は、あらゆる作物の栽培において取扱われ研究されるべき問題ではあるが、稲作や麦作などにおいては、一層重要性を有すると言うことができよう。また、労働科学における農業労働研究の対象も、主として稲作や麦作の労働であることも事実である。

職業・家庭科の目標が単に技術の習得のみでなく、国民経済や国民生活における課題に対し、一般的な理解を養うことである以上、農業生産における労働の問題に対しても眼を向けさせ、農業生産の

一つの課題として、その改善向上の方向を理解させることは必要であらう。このような農業労働の問題を、仕事を通して理解させる教材としては、当然、稲作か麦作がとりあげられるであろう。

稲作には水田を必要とするが（陸稲は別）麦は畑作である。また技術の面から考えても、稲作は特殊な技術が多いが、麦作における技術の中には、一般の畑作に共通するものが多く含まれている。さらに、中学校における職業・家庭科の学習時間数・施設および生徒の身体的発達を考える時、「いねの栽培」が無理なく効果的にこなえるかどうかについて、多くの問題を有しているように思われる。これに対して「むぎの栽培」は、学習時間数から考えても、施設面から考えても、さらに生徒の身体的発達や経験から考えても、農村の中学校ではそれ程無理なく学習ができるであろう。それに、農業労働の問題としても、作業の機械化、水田裏作と労力の問題、栽培法の改善と労力の問題等多くの問題を含んでおり、稲作によつて学習し得る農業労働に関する内容とくらべて決して劣らない。

以上のような観点から、農業労働の理解を中心として学習する教材として「むぎの栽培」をとりあげた。もちろん、このばあい栽培の基礎的技術の習得をも目標としていることは言うまでもない。

(二) 技術および技術的知識の内容

「むぎ」の栽培には、播種・整地・施肥などのような基本的な技術が含まれていることは言うまでもない。したがつて、技術および技術的知識の内容としては一応これらの技術や知識もあげておくが、そのうち、特に「むぎの栽培」で習得させたいものについては

○印を付して示すこととしよう。(○印は指導の重点)

項目	技術	技術的知識
肥 培 管 理	<ul style="list-style-type: none"> <li>耕起・碎土・整地・うね立て</li> <li>○土壤の検定・土壤の鑑別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○耕起の深淺と生育(特に根の形態)の關係・○土質と根の形態・○深耕の效果と労力の關係・○不整地播の得失・土質とうね型・酸性土壤と作物の生育耕起と土壤組織の変化</li> </ul>
種 苗 管 理	<ul style="list-style-type: none"> <li>種子の選別・○種子の予措○種子の消毒・播種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発芽の条件・○春播性と秋播性(ヤロビの原理)種子の構造と発芽の状況・○適期播種の必要性・播種方法(条播・点播・広巾薄播)と生育・○広巾薄播の得失、○作業の機械化と広巾薄播、○播種器の利用と作業能率・播種量決定の要素、○不整地播と労力の節約・選種方法○種子によつて伝染する病氣○種子消毒の方法と原理、○種子の予措の效果(発芽および生育)</li> </ul>
肥 培 管 理	<ul style="list-style-type: none"> <li>土よせ・○土入れ・中耕・○麦踏み踏圧・除草・病氣の発見と予防</li> <li>驅除・害虫の発見と驅除予防、(薬剤の調製・薬剤の撒布)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○むぎの発育と形態的变化・中耕と生育の關係○発育過程と環境条件・土質と中耕回数中耕と除草効果、○生育状況と中耕の程度○土入れの効果、○むぎ踏みの効果、○むぎのおもなる病氣の種類・病徴・予防法。</li> <li>○むぎのおもなる害虫の種類・生態・被害・驅除法○病虫害防除薬の種類</li> </ul>

経営管理	収納管理	肥料管理	
品種の選定、○作付計画のたて方、○労力調査のし方、作業日誌の書き方、○生産費の計算、収量の計算	○脱穀、○調製、○乾燥、貯蔵、○麦刈り(収穫) ○脱穀機の操作、○脱穀機の保守(手入)	肥料の鑑別・施肥計画 ・元肥の施肥・○追肥の施肥・肥料の配合、 ○堆肥の作り方・葉面施肥のし方	
○品種とその特性、○品種選択の基準、○栽培法と品種の選択、○栽培環境と品種の関係、○栽培環境条件と生育、○裏作の得失、○むぎ作の適地と不適地、○むぎ作の栽培方法の類別及其の特徴、○むぎ作の労力とその調整、○むぎ作経営の条件、むぎ作の生産費、○輪作とむぎ作の合理化	○むぎの生育過程と収穫期、○乾燥の良否と品質、○乾燥の良否と穂発芽、○脱穀機の種類と能率、○脱穀機の種類と構造および性能、貯蔵の条件、	○覆土と堆肥、○堆肥の効果、○むぎの生育と肥料効果、土質・地力と施肥量の関係 ○施肥量決定の要素、 ○生育過程と追肥時期、○マンガン欠乏土壌とマンガン肥料の施肥効果 肥料配合の可否、○むぎの基準施肥肥料・○葉面施肥の効果	類・性質・使用法土よせの効果、○麦踏みの機械化と労力の節約、○中耕除草の機械化(カルチベーター)利用と労力の節約

- (三) 社会的経済的知識の内容
- むぎの栽培の学習において習得すべき社会的経済的知識の内容は次のとおりである。(○印は指導の重点)
- (1) わが国のむぎ作の現況(作付状況)
  - (2) むぎ作の将来 食生活の動向とむぎ作の将来・作付可能面積とむぎ作の将来。(土地改良と不適地の適地化)
  - (3) むぎ作と農業経営 稲作とむぎ作の関係、養蚕や野菜栽培とむぎ作との関係、
  - (4) むぎ作と農業労働のピーク、
  - (5) むぎ作の機械化と生産性の向上、
  - (6) むぎ作機械化の前提条件 土地の交換分合、耕地整理、作業の共同化、農業機械の改良と生産の向上。
  - (7) むぎ作の機械化と労力の調節(労働の生産性の向上)。
  - (8) むぎ作技術の進歩。
  - (9) 省力栽培法と機械化。
  - (10) むぎ作と土地改良の問題。
- 以上「むぎの栽培」についてその意義や教育内容をのべてきたが、要するに、一つの教材をとりあげた時、その教材はどのような視点からとりあげられたかを明らかにし、その線に沿って教育内容を重点的に取扱わねばならない。「むぎの栽培」において、単に「むぎの栽培を経験させる」のではなく、「むぎの栽培」においてこそ習得させねばならぬ技術や知識をしつかりおさえ、そこに重点をおいて指導してこそ、学習指導の意味があるのではなからうか。またそのような指導こそが、一般技術教育としては正しいのではないだろうか。
- (東京都碓中学校教諭)

# 新・指導要領をどう受けとめるか

——三十二年度職・家科教育計画の留意点——

中学校職業家庭科の新学習指導要領が公けにされて一年、いよいよ今年度の第一学年から実施の段取りに入る。この間、新しい指導要領をどう受けとめ、どのように実践に生かしていくかについて、全国的にさまざまな説明会や研究会がもたれたし、本誌もしばしば批判検討をこころみて来たが、いまここに改めて、文部省の解説資料と、われわれのわがからの批判・提案をあわせかかかって、現場における活発な論議とすぐれた考案工夫の素材としたい。

——編集部——

## 文部省「学習指導書」の 第一群案を読んで

研究部 第一群部会

### 一、まえがき

本年四月から待望の改訂学習指導要領による学習が全国いたるところ展開され、職業・家庭科の正しい学習が一段と活潑になる予定である。

この予定が狂いなく実現されるために、近く職業・家庭科の学習指導書が文部省から出される(本誌三月号けいさい)そこで「この指導書をどう受けとるか」が問題となる。

指導書は、どこまでも指導書であつてかつて戦前において拘束性をもつていた教授細目ではないから民間で発行される指導の参考書と何等変るものではないはずである。したがつてこれほどこまでも参考書であるからとるにたらなければ読みすてもよいし、その批判も自由である。わたしたちは、研究の資料としてこれを読み、大いに批判しむずからの

研究を深める糧として利用し、これに権威を認めたり、無批判に引ずられたり、拘束されたりしない態度でこの指導書を受けとろう。

この意味で連盟の研究部第一群部会では、前号に掲載された指導書(第一群関係)の内容を連盟の立場から批判検討することとした。

### 二、「指導計画の留意点」について

第一群に関する指導計画は「指導計画の留意点」と四つの「指導計画の例」とからできている。

まず指導計画の留意点として「日課時間と仕事の配当」「指導内容の配列と仕事の選び方」「他群との関係」「施設設備とその運営計画」の四つの点についてのべているが、これらの四つの点はいずれも日常の学習指導上いろいろと問題になることがらばかりである。それだけに各学校では、その学校の教員組織や施設設備等その学校の主体的条件に即した方法で一応解決している問題も多いであろう。わたしたちが指導書に求めたいものはこのほかの問題が多いのではなからうか。たとえば「圃場実習の学習形態とそれぞれの場合の指導上の留意点」とか「実験的内容をもつ実習指導上の留意点」「労働奉仕的になり

がちな栽培学習を是正するための留意点など基本的な問題が現場には未解決のまま転がっているはずだし、それらの問題の解決に悩んでいるのが現実での姿でもあり、これらの問題を具体的に実践的に解決してくれる指導書を求めているのが実状ではないであろうか。

指導上の留意点「日課時間と仕事の配当」について考えてみよう。この項では「二時間つずきの時間の必要」や「時間配当が週の終りに偏しないように」と注意している。

実際「二時間つずきの学習」が望ましいが、その必要は実は継続的な実習（この意味がやや不明）であるからではなく、準備や後片づけをとまなうすべての実験実習に共通して要求されるのではなからうか。

栽培の学習を指導していると、確かに二時間統きの学習の必要を痛感するが、それだからといって一年間を通じて二時間統きの学習が適当であるとはいえない。夏の炎天下での圃場実習を二時間つずけることが、中学生の身体にとつて果して適当であろうか、また、その後の学習（日課）に及ぼす影響はどうであろうか。さらに圃場の仕事が極めて少ない冬季にも二時間統きの学習が日課編成上適当であろうか。

そこでもつと融通性のある時間割編成がでないものであろうかと考えさせられる。たとえば、男女が共通の学習をする場合、職業・家庭科の第一群を指導する教師と他の群を指導する教師が一組となつて二時間つずきの時間を担当し（または同じ学級の一時間を第一群、つぎの一時間を他群の学習とし、この時間を続けて二時間統きの時間とする）実習の都合である週は一時間ずつ分担し、またある週は一方の群の学習を二時間続けて学習するというような方法も可能であろう。とくに気候や天候に支配される栽培の学習には、このような工夫は各学校で考えるべきではないだろうか。少くとも指導書としては「二時間つずきの日課をとる必要がある」と割りきつてしまわず、「二時間統きの学習ができるような日課編成が必要である」と今少し融通性を持たせたほうがよい。

つぎに仕事を選ぶ場合「自然環境……最適な仕事を取り上げられない場合がある。この場合はその仕事の性質や管理技術などが類似したものの中から選ぶ……」（傍点筆者）と示しているが、もし基礎的技術を「稲作の技術」「麦作の技術」などのように作物栽培そのものを一つの技術と考えるのではなく、作物栽

培の過程における個々の技術を分析し、その分析された技術の中から栽培の基礎的（あるいは基本的）なものたとえば播種・耕起・施肥など一般的な技術一を選び、その技術を習得するために適切な作物を選んでその作物の栽培（仕事）を学習させる立場をとるならば「その仕事の性質や管理技術などが類似したものを選ぶ」ということではなくなるであろう。この意味では、指導計画の基盤は「仕事中心主義」であり「経験技術主義」であるといわざるをえない。稲作ができなければ、せめて「麦作」でも、「野菜栽培」が困難なら「草花」ぐらいはと簡単に考えることが、一般技術教育として正しいだろうか。「草花」の栽培をとりあげた場合もただ野菜栽培の代換ではなく、栽培の基礎的技術の視点にたつて十分な検討がなされて後にとりあげらるべきであろう。

他群との関係の項で「圃場の整備や図画・畜舎の設計や修理などの学習は第二群と融合した学習計画をたてることも便利である（傍点筆者）」とのべているが、便利だから学習するという考え方には疑問がある。またこのことは恐らく「第二群の建築製図・測量・コンクリート等の学習を第一群の学習と融合して

おこなうとよい」という意味に解されるが、この考え方の底には、生活経験学習的なものが流れているように受けとれる。もちろん、生活経験学習も意味がある。しかし、技術の習得を目標とする一般技術教育では、技術の系統を重視して、もう少し技術的には厳しい考え方でよいのではないだろうか。建築製図・測量・コンクリート等の技術は第二群でしっかり正しく学習し、その技術を圃場の整備や図画を作る時に、あるいは畜舎を修理する時に活用するとか、あるいは逆に第二群でコンクリートについて学習する場合にその教材として畜舎の床や、コンクリート温床を作るとかすることのほうが一般技術教育としては正しい姿であろう。もし、指導計画に示されているような考え方を広げてゆくと、麦の脱穀で機械の整備修理の学習がさまざま、育苗に電熱温床を用いれば、電気の学習がすんでしまうことにもなりかねない。また、作物や野菜の販売・収支計算をすれば、売買や記帳の学習が終つたことになるかも知れない。これでは、ミシンで洋裁をしたら機械操作の学習をしたことになつた二十六年版学習指導要領と何等変らないといえる。なんのため、指導要領の改訂であつたか、ここで今一

度考えてみたくなつてくる。他群との関係もたいせつだが、やはり、技術の系統をしつかりおさえて学習計画をたてる必要がある。施設・設備の運営計画についても、今少し具体的な点に触れる必要がある。たとえば、学習形態と圃場面積の関係とか、見本園・実験圃場の運営管理の留意点などについての説明が欲しいし、農具などの管理については相当留意点があげられるのではなからうか。

### 三、指導計画の例について

指導計画の例は、都市地域(三五時間学習) 都市近郊地域および農村女子(七〇時間学習) 農村地域(一四〇時間学習) 農村地域(二一〇時間学習) の四つが示されている。職業・家庭科の学習は地域によつて多少異なるであろうが、これは農村は第一群を、都市は第二・三群を地域主義(地域の要求や生徒の生活経験を重視した)的な考え方からではなく施設・設備から考えて学習の可能性によつて生ずるものである。このように考えると「農村地域で一四〇時間」というような示し方ではなく、「第一群を中心とした学習計画」とか、「第二・三群を中心とした場合」とかという示し方が妥当だといえよう。

各例の作物の配当を見ると、少し多過ぎる

感がある。「いね」「むぎ」などの学習には少くとも一〇時間―一五時間、野菜についても一つの作物には一〇時間以上の学習が必要である。

例二・例三の二学年では、果菜類として「トマト」と「かぼちや」をあげてあるが、「かぼちや」はむしろ一学年に配当し、その発展として二学年で「トマト」を栽培するほうが妥当ではないだろうか。また、例一の二学年で野菜の栽培として「トマト」と「ほうれんそう」が示されているが、栽培技術の難易・作物形態の観察(整枝など)などから考えて、「トマト」のかわりに「かぼちや」の方が適当なように思われる。

飼育学習については、飼育技術の習得を目標とする場合は、よほど学習形態や学習方法を考えないと学習効果がない。むしろこれらのものは、選択の時間のみつちりと学習するように計画したほうが有効といえる。必修の時間に学習するならば、「にわとり」か「やぎ」ぐらいで、「ぶた」「うし」などは選択にまわすべきであろう。この指導計画では「家庭実習」をも考えているようであるが、中学校における家庭学習は周到な計画と指導(巡回指導)がなければ成功するものではなく、



実際には極めて困難である。指導書などで簡単に「家庭実習を予定している」とのべることは、あまり親切な方法とはいえない。なお飼育については「うし」や「かいこ」をとりあげているが、これには多くの問題があるう。

農産加工として「つけもの」「水あめ」「わら加工」などがあげられていることも、一般技術教育的視点から多くの問題を残している。農産加工の学習をとりあげると、単に農家の副業的立場や、農閑期利用の家庭工業的考えから教材を選択するのではなく、近代産業技術の立場から考えるべきである。このように考えると「水あめ」や「つけもの」が教材として適当であるかどうか疑問である。

以上指導計画の例について部分的に検討したが、要するに、この指導計画の例は大体羅列的であり、地域主義的（農村における農業教育的？）な傾向が強い。「基礎的技術の習得」や「わが国の国民経済の理解」を二つの柱として指導要領が改訂されたのであるから第一群の学習計画もその線に沿って、もつとすじの通つたものとなるべきである。基礎的技術をしつかりおさえ、仕事をなるべく少く

して、一つの仕事の学習に充分な時間をとることが必要であるといえよう。

#### 四、むすび

最後に、指導要領や指導書について考えさせられることは理想を追うのあまり、とかく「現場の実状」が忘れられ易いことである。「現場」にはもつともつとプリミティブな問題がたくさん転がっており、現場教師はこれらの問題と悪戦苦闘しているのである。これらの生々しい問題の解決になんらかのヒントを与えるような親切な指導書をこそ現場は待ち望んでいるのである。

資料
職業・家庭科の 指導計画 (その2)

これは文部省主催の昭和三十一年度職業に関する学習指導要領趣旨徹底講習会における説明資料の一部であつて本年五月頃刊行予定の指導書学習指導要領の解説書の骨子をなすものである。本号ではその中から、第一群と第二群の全文をかかげた。

### 第二群

第二群のねらいを達成するためには、指導計画の作成にあたり、次の諸点に留意することが必要である。

(1) 各仕事の配当時間 第二群のねらいを達成するためには、仕事に先だつて、周到・綿密な計画・準備を行い・順次段階を追つて仕事を進め、最後にじゆうぶん整理・整とんするような指導が行われるべきであり、そのためには、きわめて少数の配当時間は望ましくない。たとえば製作的な仕事には、少なくとも一〇時間以上の時間を配当することが必要であろう。この群で「少数の代表的な仕事を選定する」という趣旨も、多くの仕事をあれもこれもと取りあげることによつて、各仕事の配当時間が少なくなることはいまじめなものにはほかならない。

(2) 仕事の配列順序 たとえば「整備修理」や「保守修理」を正しく学習するためには、まず図面を正しく読めることが必要であり、また「金属加工」や「木材加工」などでよい製品を製作するためには、図面を正しく描けることが必要である。したがつて第二群

ではまず「機械製図」の基礎から指導を始め学習指導要領の各項目の「留意点」に示してある他教科や各分野・項目相互の関連を考慮して、学年ごとの指導目標を設定し、各仕事の位置づけを明かるとともに「技能」・「技術的な知識・理解」・「社会的・経済的な知識・理解」のいずれのねらいにおいても、順次、基礎的なものから応用的なものへ指導していけるように、仕事を配列することがたいせつである。

(3) 他の群との関連 基礎的な技術の背景となる社会的・経済的な知識・理解は、社会科や第三群・第六群との関連を考慮し、できるだけ仕事に結びつけて指導するように計画することが必要である。また「建築製図」は「木材加工」「コンクリート」や第五群の「住生活」「設備」などと融合して指導し、「測量」と「コンクリート」とは、第一群の学習において必要を生じた場合それらと融合して指導するように計画することが望ましい。

(4) 施設・設備・教員組織 指導計画の作成にあたっては、施設・設備や教員組織も考慮しなければならない。たとえば「製図」「整備修理」「機器製作」「保守修理」などは取り上げる仕事によつては普通教室を兼用で

きるが、「金属加工」「操作運転」「木材加工」などの指導にあたっては、専用の実習室を必要とする。もし実習室がない場合には、まず施設の充実につとめることはもちろんであるが、その過程においてもこれらの学習を可能にするために、いろいろとくふうをこらすべきである。また設備にしても、一つの設備に同時に多数の生徒が集中するような指導ではほとんど学習の効果は望めない。したがって設備の数が少ない場合には、この群のいくつかの仕事や、さらに他の群の仕事などを同時に展開するようなくふうをこらし、一つの設備を同時に使用する生徒数が適切になるように計画することが望ましい。さらにまた、第二群のすべての分野を一人でじゅうぶん指導できるような教師は少ないであろうから、他教科専任教師の協力のもとに、できれば二人以上の教師でこの群を担当するようにくふうすることもありうる。このように指導計画の作成にあたっては、限られた施設・設備や教員組織を最大限に活用して、指導効果を高めるようなくふうと努力とがはらわれなければならない。

例 1 (35時間の場合)

分野	項目	1 年	時間	2 年	時間	3 年	時間	総時間
製図	製図の基礎 機械製図 電気製図 建築製図		15					15
機械	金属加工 操作運転 整備修理			裁縫ミシン	10			10
電気	機器製作 保守修理			電気器具 屋内配線	10			10
建設	測量 木材加工 コンクリート							
学年別総時間			15		20			35

(1) 注 本案は女子を対象としたもので、「指導計画の基準」に共通必修の最低時間として示されている三年間三十五時間の学習により、第二群のねらいを達成しようとするものである。

(2) 表中、( ) 印の仕事は、その上に記載した仕事と融合して学習させることをあら

例2 (70時間の場合)

分野	項目	1年	時間	2年	時間	3年	時間	総時間
製図	機械製図	製図の基礎	△15			小住宅	10	15
	電気製図 建築製図							10
機械	金属加工 操作運修理	ろうと又 切の家庭器具	12	裁縫ミシン	△10			12
	機械製作 保守修理							電気器具 屋内配線
建設	測量 木材加工 コンクリート	箱類	13					13
学年別総時間			40	20			10	70

わす。  
 (3) 「電気器具」は電熱器その他の家庭用電気器具を主とする。  
 (4) 「製図の基礎」は個別指導、「裁縫ミシン」「電気器具」は一グループ五〜六人からなるグループ別指導とすることが望ましい。

- 注
- (1) 本案は女子を対象としたもので、例1に家庭工作を組みこんで三年間に七〇時間学習させることにより、第二群のねらいを達成するとともに家庭生活の改善にも役だてようとするものである。
  - (2) 表中、配当時間に△印のついているものは、その中に共通必修の時間(第二群について、すべての生徒に少なくとも三年間に三十五時間学ばせる)を含んでいることをあらわす。
  - (3) 「小住宅」は平面図の整図と立面図、断面図などの読図を含む。「ちりとり」はハンダづけ・びよう接合を必要とするものとする。
  - (4) 「小住宅」「ろうと」「ちりとり」「箱類」は個別指導とする。
  - (5) その他については、例1の注を参照のこと。

例3 (105 時間の場合)

分野	項目	1年	時間	2年	時間	3年	時間	総時間
製図	機械製図	製図の基礎	△15		屋内配線 温床	3	ラジオ配線	15
	電気製図 建築製図							5
機械	金属加工 操作運修理		12	自 裁縫ミシン	△10		農業機械	12
	機械製作 保守修理							電気器具
建設	測量 木材加工 コンクリート					校地測量 コンクリート 工事	6	6
学年別総時間			27	40			38	105

注

- (1) 本案は主として農村の中学校の男子を対象としたもので、組織的・系統的な学習が可能な範囲で全分野にわたって仕事をとりあげ、三年間に一〇五時間学習させることにより、第二群のねらいを達成しようとする。

するものである。

(2) (印でくくつた仕事は学校の事情に応じて、いづれか一方を取りあげてもよいし一つの設備に多数の生徒が集中しないように両者を並行に学習させてもよいことをあらわす。

(3) 「農業機械」は石油発動機を装備した農業機械、「電動機」は単相または三相の小型誘導発動機、「ラジオ」は高一型四球ラジオまたは並型四球ラジオをさす。また「校地測量」は校地の平板測量、「温床」はビニール張りの小型のもの、「コンクリート工事」はできれば鉄筋入りのものとする。

(4) 「補強金具」は個別指導、「自転車」「農業機械」「電動機」「ラジオ」「校地測量」「コンクリート工事」はグループ別指導、「温床」はグループ編成による流れ作業によつて指導するのが望ましい。また「屋内配線図」「ラジオ配線図」「温床の製図」はそれぞれ「電気器具」「ラジオ」「温床の製作」と融合して指導するように計画する。

(5) 仕事は、学校の事情により、次のような代替が可能である。

ちりとり→ろうと・角形容器など

例4 (175 時間の場合)

分野	項目	1 年	時間	2 年	時間	3 年	時間	時間	総
製図	製図の基礎	△	18	機械要素製図 屋内配線図	15	ラジオ配線図	6		33
	機械製図 電気製図 建築製図				4			10	
機械	加工運転 金属操作 整備修理	ちりとり ブックエンド	14	ぶんちん 小自動車 縫ミシン (裁縫)	20	内燃機関	20	44	20
			10		△				
電気	製作修理 機器保守			ブザー (信号配線 電気器具)	12	ラジオ機 オ機オ	20	32	
					△	10	12	22	
建設	測量 木材加工 コンクリート								
	学年別総時間		42		75		58	175	

補強金具→ブックエンド  
自転車・裁縫ミシン→石油発動機・モーターバイクなど  
温床→屋外掲示板  
(6) その他については、例1および2の注を参照のこと。

注

(1) 本案は主として都市の中学校の男子を対象としたもので、できるだけ少数の代表的な仕事を取りあげ、三年間に一七五時間学習させることにより、第二群のねらいを達成しようとするものである。

(2) } 印は、一つの仕事で二つの項目を同時に取りあげることあらわす。

(3) 「機械要素の製図」は略図法、「ブックエンド」は厚板金を用い、たがねで切断し、折り曲げて、やすり仕上げにより完成するもの、「ぶんちん」「小刀」は火造・機械仕上げを必要とするもの、「内燃機関」は内燃機関を装備した機械を用い、機体の整備修理を含むもの、「ブザー」は金属加工による電磁石の製作を主とするものとする。

(4) 「機械要素の製図」「ぶんちん」「小刀」「ブザー」は個別指導、「内燃機関」はグループ別指導、「ラジオの製作」はグループ編成による流れ作業によつて指導することが望ましい。

(5) 仕事は、学校の事情により、次のような代替が可能である。

ブックエンド→補強金具など  
ブザー→小型変圧器・電鈴など

例5 (210 時間の場合)

分野	項目	1 年	時間	2 年	時間	3 年	時間	総時間
製図	機械製図	製図の基礎	△18	機械要素製図 屋内配線 小住	15 4 10	ラジオ配線図	6	33 10 10
	電気製図							
機械	金属加工	ちりとり (自裁縫)	10 △15	補強金具 ボルト・ナット ぶんちん刀	10 15	内燃機関	30	20 15 30 15
	電気整備							
電気	機器製作 保守修理			電気器具	△10	(ラジラ シ動シ オ機オ)	20 9	20 19
建設	測量 木材加工 コンクリート	腰掛 コンクリート 工事	15 8	屋外掲示板	15			30 8
学年別総時間					79		65	210

(6) その他については、例1~3の注を参照のこと。

(1) 注 本案は都市の中学校の男子を対象としたもので、組織的・系統的な学習が可能な

範囲で全分野にわたって仕事を取りあげ、三年間に二一〇時間学習させることにより第二群のねらいを達成しようとするものである。

(2) 「腰掛」は手工具により加工し、くぎづけでできる程度の簡易なもの、「屋外掲示板」は木工機械による加工を主とするもの、「コンクリート工事」はブロックやふみ板のような簡単なものとする。

(3) 「腰掛」「ボルト・ナット」は個別指導「屋外掲示板」はグループ編成による流れ作業によつて指導するのが望ましい。

(4) 仕事は、学校の事情により、次のような代替が可能である。

小住宅↓物置・温室など  
腰掛↓箱類

(5) その他については、例1~4の注を参照のこと。

### 第五群

「指導計画の例」は三十五時間のものと、女子のために共通必修三十五時間を含めて二四五時間のものを計画した。また男子が選択

必修する場合を考慮して七〇時間のものを計画した。これは一例であるから各学校では次のことに留意し、他の群や関連教科との関係を考慮して計画することが肝要である。

#### 留意点

1、第五群の指導計画では、日常生活に緊要で実践しやすいものを、低学年において学習させ、生活改善に関係深く、くふう・創造の力を要するもの、総合的学習に関するものを高学年に計画する。共通必修以外のものについては、中学年に重点をおいて特に実習を多くするほうがよい。

2、女子の場合は共通に学習する時間三十五時間を加え、二四五時間をくならないようにしたい。なお指導計画表例三の\*印のものはこの配当時間をくならないようにすることが望ましい。

3、保育・家族・家庭経済・家事労働の素材の一部は、他の項目の学習と関連して具体的に指導するように計画する。

4、調理・被服製作・被服整理などには専用の学習室及び施設・設備を必要とする。しかし現在実習室がない場合は、その過程においていろいろくふうをこらす必要がある。

例1 (35 時間 の 場合)

分野	項目	1 年	時間	2 年	時間	3 年	時間	時間	時間
食物	食生活 (1) (2) (3) (4) 自分の1日の食糧 の見積り 自分の1日および 1か月の食物費の 見積り 自分の1日の献立 作成		7			食生活 (5) (6) 食生活の改善		3	10
	調理 A (1) (2) (3) 実習の例 別表		14						14
被服	衣生活 (1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) 仕事の例 靴下・シャツ・ブ ラウスのまる洗い (湿式)		4			衣生活の改善		1	5
	被服製作								
	被服整理								
住居	住生活 (1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) 住生活の改善 仕事の例 勉強場, 押入れ, 台所の施設, 浴室 などの設計							△ 6	6
	設備								
家族	保育 家族								
	家庭 看護								
家庭経営	家庭 経済								
	家事 労働								
学年別 総時間			25					10	35

- 注 1. これは男子生徒が 35 時間を学習する場合の一例である。  
 2. 指導計画表の ( ) の番号は、学習指導要領の各項目の素材を示したものである。

例2 (70時間の場合)

分野	項目	1年	時間	2年	時間	3年	時間	総時間
食物	食生活	食生活 (1)(2)(3)(4) 自分の1日の食糧の 見送り 自分の1日及び1か 月の食物費の見送り 自分の1日の献立作 成	△7			食生活 (5)(6) 食生活の改善	△3	10
	調理	調理 A (1)(2)(3) 実習の例 別表	△14					14
被服	衣生活	衣生活 (1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) 靴下・シャツ・ブラ ウスのまる洗い(湿 式)	△4			衣生活改善	△1	5
	被服整理			被服整理 (1)(2)(3)(4)(5) 仕事の例 まる洗い・干し方・ アイロン仕上げ、し まい方、しみ抜き	4			4
住居	住生活					住生活 (1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) 住生活の改善 仕事の例 勉強場、押入れ、台 所の施設、浴室など の設計	△6	6
	設備					設 備 (1)(2) 仕事の例 勉強場、居間、便所 などの設備と改善	5	5
家族	保育家族			保育・家族 (1)(2)(3)(4)・・・被服整理 (7)(10)乳児のみ (11)(12)(13)(14)(15)(16)	1 6			7
	家庭看護							
家庭経営	家庭経済					家庭経済 (1)(2)(3)(4) (5)食・衣・住の合理化 暖房・照明・・・設備 (6)仕事の例 家計簿の記帳	5 1 5	11
	家事労働			家事労働 (1)(2)(3)(4) (5)(6)・・・被服整理	2 2	家事労働 (1)(7)(8) 家事労働の改善	4	8
学年別総時間			25		15		30	70

- 注 1. これは男子生徒が第五群を70時間学習する場合の一例である。  
 2. 共通に学習すべき項目の配当時間には△印がつけてある。

例3 (245時間の場合)

分野	項目	1年	時間	2年	時間	3年	時間	時間	時間
(52)	食生活	食生活(1)(2)(3)(4) 仕事の例 自分の1日の食糧の1日の 見積り, 自分の1日の食物 および1ヶ月の食物の 費の見積り, 自分の 1日の献立作成	△7			食生活(5)(6) 食生活の改善	△3	10	
	調理	調理A(1)(2)(3) 実習の例 別表	△14	調理B(1)(2)(3) 実習の例 別表	*14	調理B(1)(2)(3) 実習の例 別表	*14	42	
	被服	衣生活(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) 仕事の例 靴下・ソックス・ ブラウスのまる洗い(湿式)	△4	衣生活(3)(イ)(ウ)(4)	3	衣生活の改善	△1	8	
	被服製作	裁縫 ブラウス 編物 ソックスまたは はマスケットタイ	27 8	裁縫 スカート ひとえ長着または改良 長着 手芸	14 28 8	裁縫 ワンピースドレス スラックスまたはボレ ロ編物またはセーター	18 15	118	
	被服整理			被服整理(1)(2)(3)(4)(5)(6) 仕事の例 まる洗い・部分洗い・ 干し方アイロン仕上げ しまい方, しみ抜き, つくろい	8			8	
(11)	住居	住生活				住生活(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) 住生活の改善 仕事の例 勉強場, 押入れ, 台所 の施設浴室などの設計	△6	6	
	設備					設備(1)(2) 仕事の例 勉強場・居間・便所な どの設備と改善	5	5	
(20)	家族	保育・家族		保育・家族 { 調理(1)(2)(3)(4)… 衣生活 被服整理 (7)(8)(10) (幼児のみ) (9)(11)(12)(13)(14)(15)(16)(17) 仕事の例 離乳食の調理 別表	2 1 1 *8	保育・家族(5)(6)	2	14	
	家庭看護			家庭看護(1)(2)(3)(4) 実習の例 (3)の(イ)(ウ)(エ)に関する 実習 病人食調理別表 常備食・看護用品の整 理のくふう	6			6	
(28)	家庭経営	家庭経営		家庭経済(6)仕事の例 まかない帳の記入	2	家庭経済(1)(2)(3)(4) (5)食・衣住の合理化 燃料と燃焼器具—調理 暖房・照明—設備 (6)仕事の例 家計簿の記帳	5 1 1 5	14	
	家事労働	家事労働		家事労働(1)(2)(3)(4) (5)(6)…… { 調理 被服整理	2 4 4	家事労働(1)(7)(8) 家事労働の改善	4	14	
学年別総時間			60		105		80	245	



注

- 1、これは女子生徒が第五群を学習する場合の一例である。
- 2、共通に学習すべき項目の配当時間には△印がつけてある。

〔調理実習例（別表）〕

一 学年

- 1、米飯（水びき）、青花、とうふみそ汁
- 2、麺類（煮しめー油揚げ、菜、ねぎ、ちくわ）、酢のもの（わかめ、小魚または貝、いか等）
- 3、パン食（サンドウィッチまたはホットドッグーサラダ、きゅうり、ぬりみそ、ハム、いり卵、さげかん、ひき肉等）、ミルク（脱脂粉乳）
- 4、パン食、ムニエル、粉ふきいも、いんげんのソーテー
- 5、いも飯、煮つけ（魚・野菜）、おろしあえ（リンゴ、かき、みかん）
- 6、飯（麦、粟、稗等）、さつま汁、即席漬、茶
- 7、カレー・ライス（湯だき飯）、フルーツ・ポンチ

二 学年

- 1、豆飯（青えんどうまたはそら豆）、うしお汁、浸しもの（切りごまかけ）
  - 2、にぎり飯（梅干いり）、煮しめ、茶
  - 3、麺類（冷麦、つけ汁）、中華式酢のもの（きゅうり、うす焼卵、ハム、春さめ等）
  - 4、パン食（トースト）、ジャムまたはママレード、マッシュド・ポテト（ひき肉またはさげかん、たまねぎ）、パセリ
  - 5、ちらしずし（湯だき、かき玉汁）
  - 6、焼魚（生、塩干）、だいこんおろし、ごまあえ（緑黄野菜）
  - 7、けんちん汁またはスチュー、果じゅうか
- 三 学年
- 1、茶わんむし（卵どうふ、小田巻むし）、ぬた
  - 2、ゆで卵（梅花卵）・厚焼卵、きんぴら、かぶ甘酢
  - 3、つけ焼（肉または魚）、キャベツ、トマトなすのなべしぎやき
  - 4、すし（のり巻、いなり）、すましじる（卵とじ）
  - 5、揚げもの（天ぶら、から揚げ、精進あげかきあげ）だいこんおろし、天つゆ
  - 6、かき飯（とり・魚・肉）、白あえ（野菜・くだもの）

7、献立調理応用実習

離乳食・病人食の調理  
かゆ、おもゆ、半熟卵、ほうれん草のうらごし

研究会のおしらせ

職業科の先生方をはじめ、広く本教科の問題に関心あるみなさんの御出席をお待ちします。

主 題 「機械分野教材の検討」

と き 四月二五日（木）午後五時

と ころ 国学院大学教育学研究室

（渋谷駅青山口、都バス日赤産院行大学前下車）

テキスト 学習指導要領および本誌四月号

助言者 吉田元他常任委員

○ 参加費は無料です。

家庭科教育研究会

毎月二回定例の研究会をもっています。小中高の現場の私たち家庭科教師の自主的な集りです。どなたも自由に話しあっています。ぜひ御出席ください。日時場所その他については本部宛御連絡ください。

# 技術語、いの

## 基礎基本語

矢野敏雄

### 一、なぜ基礎基本語を考えるか

私たちはさきに技能者養成機関である石川島重工業の定時制高校で使用している技術関係テキストの語い調査を実施した(その概略は本誌昨年(の二月号)に発表)。調査がねらいとしたところは、(A)中学校終了者が就職する機械工場においては、どのような技術関係語いが必要とするかを分析し、(B)それにもとづいて義務教育における国語教育のあり方、特に語いの面を検討することであった。

国語教育が語いの学習において、一般に指導のねらいとするところは、(1)語いを豊富にもたせる、(2)一つ一つの語を正確に身につけさせるということである。そのばあいに考えられる必要なことは、語いの学習における系統性と関連性ということである。言語の一般的な性格・機能・役割を明確にした上で、言語教育の場を広く社会生活一般に求めて指導をおしすすめてみても、系統的な関連性をもつた言語の学習は達成されないのであろうことは確かである。

しかし技術教育という問題の視点から国語教育を検討するばあいでも、まず技術教育ではどういふ語が使用され必要とされているか

をみきわめて、それが国語教育ではすでにどのくらい指導されているかというかたちでは、語いの学習における系統性と関連性を明かにした、ということにはならないであらう。技術教育における言語は、技術関係語いとして構成されているから、それをそのまま国語教育にもちこむことはムリである。しかも私たちがみきわめようとする語いは、この種の語いつまり用語を対象としている。だから(A)の結果をふまえて、(B)の検討に入る段階で、どうしても用語の語い分析から、基礎基本語の設定と検討が必要となつてきた。技術関係語いを構成している基礎基本語をもつて、現行国語教育を技術教育の視点から確かめてみることはできるであらう。

そのばあい、たとえば国語教科書などにおいて基礎基本語を直接生産技術とは関係ない教材や文脈の中でとらえることもあるが、言語が特定の一部の社会や領域や部門だけに奉仕するものではない以上、このことにわずらわされる必要はないと考える。生産技術に奉仕する言語は、また別の領域や分野にも奉仕する。だから、技術関係語いにおける基礎基本語を明かにすることは、この意味でも必要であらう。

### 二、どういふものが基礎基本語か

ここでは上記語い調査の結果から、基礎基本語と見られるものを具体的に示してみよう。

語い調査の結果から、頻度二〇以上の単語を抽出すると、全部で二〇九語がみとめられ、この使用率は単語全体の使用率の約六一%を占める。基礎基本語はかならずしも頻度率の高さだけからみとめることはできないが、ひとまずこの二〇九語について考えてみよう(第一表参照)。



となる。(c)においては日本語のばあい、自他動詞の区別が判然としないので分類を試みなかった。頻度が低いため第一表にあらわれなかつたが、語い調査の結査から、

- (e) 名詞十動詞連用形Ⅱ名詞(後戻り、渦巻き)  
 (f) 形容詞語幹十み(厚み)

のかたちが求められる。(f)は(a)に含めてよい。(a)から(e)までのかたちで、語い調査の結果から整理してみると、(a)一一語、(b)二七語、(c)一九五語、(d)二二語、(e)二四語となる(本誌昨年の二月号参照) 文部省編「学術用語集機械工学編」(日本機械学会発行)によると、右以外の単語として、(a)に二語、(b)に二四語、(d)に二六語、(e)に九語補足することができる(本誌五一年二月号)。

(c)は漢字二字からなる完全な字音語である。技術関係語いには、この種のかたちの字音語の頻度が高い。(A)による分類からは、(c)を除いて、基礎基本語として、特に漢字を訓読できる語を抽出してみた。

現在国語国字問題としては、一般に漢字を音読する字音語の習得理解の困難さが指摘されている。字音語の使用が、広い層における正しい豊富な日本語の習得と理解をさまたげているといわれる。この問題は機械技術関係の語いを考えるばあい、特にその基礎基本語のかまえてたいせつであらう。語い調査の結果、漢字語が圧倒的に多くみとめられ、そのことから字音語がまだまだ多すぎると反省される。それを今後どのように「いいかえ」「おきかえ」て、字音語の多い現状を克服していくかが、基礎基本語の検討とともに、今後の技術関係語いにおける「ことばづくり」の課題だといえよう。現状は(c)以外の単語および「機械工学編」から抽出した訓読で

きる単語、両者の計二六一語にとどまる程度である。  
 (B) 第一表中の単語について、その意味内容から関連性があると考えられるものを、グループ別に分類すると、

- (1) 運動の方向を示す語(上下、前後、左右、上方、下方、内方、前方、後方)

- (2) 位置・場所・部分を示す語(左側、右側、内側、両側、内部、後部、上部、下部、入口、出口、上辺)

- (3) 量に関する語(熱量、水量、流量、多量、重量)

- (4) 力に関する語(圧力、重力、火力、馬力)

- (5) 物質に関する語(水、油、石油、石炭、空気)

- (6) 元素に関する語(酸素、水素、炭素)

- (7) 速さに関する語(高速、速度、流速)

などが求められよう。この他に「時間」「重さ」「長さ」などに関する語群が考えられる。

語い調査の結果から、(3)(4)の方法で、グループ別に語群を抽出してみよう。

- 力(圧力 引力 外力 火力 汽力 効力 重力 出力 入力  
 推力 水力 勢力 全力 だ力 電力 動力 馬力 浮力 勞力)

- 面(外面 下面 管面 曲面 紙面 斜面 上面 水面 側面  
 断面 内面 背面 表面 平面 冷面)

- 気(湿気 外気 給気 空気 湿気 蒸気 大気 抽気 通気  
 電気 熱気 排気 魔気 冷気)

- 圧(強圧 高圧 混圧 初圧 水圧 多圧 単圧 中圧 低圧  
 背圧 風圧 湯圧)

○管(枝管 炎管 火管 曲管 鋼管 細管 水管 直管 鉄管)

筒管(熱管)

○形(円形 大形 扇形 小形 固形 段形 つば形 波形 箱形 星形)

○量(質量 重量 少量 水量 全量 多量 熱量 分量 流量)

このようにみてくると、技術関係語における基礎基本語としての単語は、主としてどういう種類と性質をもつた傾向の語であり、どういふまとまりをつけてみていくことができるかという、そのおおよそが見当づけられはしないだろうか。この意味で、たとえば「面、力、気、圧、管、形、量」その他に「機、器、点、線、図、質、式」などの、基礎基本語を構成する語もしくは字の検討と確保がたえず心がけられなければならない。

以上の検討から、技術関係語いを構成する基礎基本語は機械・機器・部品などの名称に関する語いを構成するだけでなく、操作・使用などの広く作業と仕事に関する語、および物質・事象・形状・作用・単位などに関する語までを含めて考えられてくる。従来一般には、技術関係語いといえは、機械・機器・部品などの名称に関する語いだけが重点的に考えられていたように思える。用語もその程度の狭い受けとり方で理解されていなかっただろうか。基礎基本語についての、おおよそかな検討をしていく過程で、技術関係語いの理解と使用の範囲はもつと広げてよいと考えられてきた。そのことは同時に技術教育における言語教育の役割を過少評価してはならないこと、および言語が生産と技術に関する仕事と作業にどう正しく奉仕するかということ、このような点からも考えられることではないだろうか。

#### 四、国語教科書における検討

基礎基本語を以上のようにみてきたが、ここで基礎基本語をもう一度確認してみよう。ここには二つの方法をとってみた。(一)はM社発行の小・中学校九年間を通して教材内容にかかわりなく教科書から抽出したばあいであり、(二)は中学校国語教科書五社発行の五種類(かりにAからEまでとする)にわたつて、科学・技術関係教材を対象として抽出したばあいである。

(一) M社発行小・中学校教科書を、語い調査の結果から、頻度一〇以上の単語二五九語について調べてみると、小学校には一三九語

第2表

2 字 語	1 字 語	小 学 校 用
両側	油、足、勢、腕、大きさ、頭、あな、あわ、板、浮、後、裏	
表面	円、音、終り、動き、かま、車、形、口、風、型、塊、傾き	
速度	皮、変り、考え、効め、鎖、逆、種、差、真、図、線	
酸素	層、損、砂、底、数、外、大、高さ、力、強さ、手、胴、縦	
温度	たな、つち、泥、台、点、鉄、長さ、斜め、流れ、荷、肉、船	
ガス	熱、速さ、齒、灰、綱、巾、はし、針、ひも、左、ふた、向	
時間	炎、表、刃、齒、棒、始め、働き、水、周り、右	
自然	目、基、戻り、物、役、用、横、和、輪	
自動車		
発生		
馬力		
自由		
羽根		
場所		
左側		
必要		
理由		
位置		
一定		
一方		
入口		
運動		
円筒		
煙突		
開閉		
片側		
種類		
上下		
状態		
水槽		
平均		
変化		
方向		
目的		
容積		

第 3 表

2 字 語	1 字語	中 学 校 用
面積、利益、割合	度、値、銅、ひずみ、面、曲り、皿	
電気、動力、途中、内部、燃焼、燃料、排汽、物体、方法	圧力、液体、往復、下方、関係、完全、機械、行程、後方、差仕え、左右、仕事、蒸気、衝動、水分、水平、水面、性質	
	石炭、絶対、前後、全体、相違、装置、多数、多量、単位、直接、直径、中央、中心、注意、通風、通路、抵抗、程度	

中学校には小学校と重複語を除いて六五語が抽出できる(第三、四表参照)。表中傍線の語が重複語である。

内わけを示すと、小学校には一字語九三語、二字語四六語であり中学校では一字語一七語、二字語四九語となる。一字語は小学校に多くでていることは当然として、二字語は小・中学校に同程度にでていることは注目してよいと思う。このことから技術関係語における基礎基本語の読み書きの習得を、義務教育における国語教育の現状でも、ある程度おしすすめることができるかといえよう。なお表中の一字語、たとえば「点、線、面、図、表、差、和、縦、横、巾形、型、数、式、価、価、鉄、鋼、質、量」などの語には、基礎基本語を関連あるまともりをもつて系統的に正しく学習するばあいのたいせつな手がかりがありそうに思える。しかしM社一種類だけの検討をもつて、教科書の全体的傾向をおしはかることはできない。今後の十分な調査と検討が必要であろう。

(二) 基礎基本語をみてみると、それが多分に数学、物理、化学など

第 4 表

書名	関教材	連数	全体と%	社	数	理	職	家	図工	保体	音
A		36	約20	13	3	12	5	/	4	7	2
B		38	29	22	/	11	9	2	5	5	1
C		16	14	11	3	7	4	2	/	2	/
D		20	20	7	/	10	7	1	/	1	/
E		33	24	23	5	15	5	1	2	2	2

の広く自然科学関係の語にわたつていことがわかる。しかしこのことからただちに、技術関係語は自然科学関係語からなりたつていると説明することはできない。言語はいかなる領域や部門、分野にも全体的にひとしく奉仕するものとして当然なことだからである。したがつて技術関係語における基礎基本語を、数学、物理、化学関係の語に解消してしまわないで、あくまでそれ自体の基礎基本語としてみていかなければならない。

以上の点をしつかりとおさえて、中学校国語教科書五種類について検討してみよう。語い抽出のための教材選択にあつてまず教材内容の知識理解の面から関連教科別にとりだしてみると、大半の教材は関連教科を一教科に限定することはできないで、二教科以上が関連してみとめられる。そこで教材を一教科別に集計することはムリなので教材の関連教科頻度をしらべてみた(第四表参照)。

これで見ると、関連教科は五種類を通じて社会科学がもつとも多く、ついで理科となる。理科数学、職業科関連教材をまとめ、科学・技術関係教材とし、

	一 年	二 年	三 年
A	比例、中心、直径、距離、空間、分量、水蒸気、観測……八語	時速、単位、湿度、温度、円、公式、線、調節、凝結、熱量冷却、計算……四二語	回転、光度、強度、高度、感度、比熱、比重、原子量、陰電子、陰極線……四六語
B	率、光、熱、酸素、六角柱、六インチ、固体、液体、石油、ガス、電気……三四語	割合、安全弁、ひずみ、はば、深さ、長さ、直角、音波、水温、放電、送電……二三語	重力、質量、水蒸気、温度、だ円形、自転、回転、時速、輪状、環状……四一語
C	円、てこ、滑車、斜面、齒車、心棒、巻揚機、結晶、半マイル……一〇語	直径、平均、時、分、秒、運動、速力、平行、方角、つりあり、円形……一九語	誤差、垂直、統計、曲線、九〇度、角度、気流、高度強度……二三語
D	だえん形、直線、運動、往復、膨脹、三〇ひろ、つる状、半月形……一〇語	水平、断面、角度、面積、水星、分子、物質、位置、圧縮空気、円錐形……三七語	五寸、六尺、四五〇キロメートル……三語
E	測定、曲線、奥行、円筒状、二等辺三角形、直径、抵抗、速度、測量、距離……二〇語	円グラフ、統計表、排気、蒸発、零度、粒子、飽和、輻射、電解度……二三語	炎心、外炎、内炎、光、温度、掛け算、十進法……七語

その関係教材数を合計すると、社会科を上回って頻度はもつとも高いことになる。

いまこの科学・技術関係教材から、一応動植物関係語いを除いて主要な関係語いを抽出し、教科書別学年別に示してみた(第五表参照)。その結果は、A九六語、B九八語、C五一語、D八七語、E五〇語となる。

第五表からは、科学・技術関係語いを正しく習得するための学年別の配列は、各教科書ともあまり考慮されていないといえよう。各

教科書を通じて、漢字一字語二字語の基礎基本語が相当数みとめられる。漢字四語以上からなる語は大体単語二語以上の連語であり、あまり多くはない。長さ、はば、深さなどの訓読みの語は、B教科書の二年にみとめられる程度で、字音語が圧倒的に多い。前節のばあいとたいへん異なる点は、つる状、だ円形半月形など、形状に関する語がかなり自由に使われていることと、時間・長さ・重さ・温度などの単語が広範に使われていることである。つまり「物のかたち」と計・測・量に関する語が多い事実からみて、これが科学・技術関係教材の性格をかなり明確にしているのではないか。だから、「物のかたち」と計・測・量に関する語は、基礎基本語のたいせつな柱であるということができよう。

このように語いを科学・技術関係教材から抽出したばあい、当然予想される専門的な知識理解を必要とする語例については、これをどう考えたらよいだろうか。用語の性質からいえば、語いのもつ専門的な意味内容が、その表記や用字までを規定してきたらうことは考えられる。しかし従来の科学・技術関係語いには字音語が多く、それが外国語の翻訳からきていること、たとえばその極端な例を示せば、「コンスタント」が機械関係では定数、数学物理では恒数、化学では不変数などとしたのはその一例であるが、言語の使用と理解は果してこれ

いいだかろう。国語国字問題の立場からすれば、国語国字の表記や用字を簡素化単純化する、つまり「書きことば」と「話しことば」の差をうめていく、漢字語の音読を訓読にきりかえていく、困難な漢字使用をさけるなどの仕事が要求され、最近の科学・技術関係用語の統一化の動きもこの方向に沿ってなされている。このことは技術教育の視点からすれば、専門的な意味内容を常識一般的な理解の段階にまでひきおろすというのでなく、専門的な意味内容をしっかりとおさえての正しい言語の習得と使用が、広い層の理解と支持をえることをねらいとしたものでなければならぬ。

技術関係語における基礎基本語の検討は、この意味から、国語国字問題として積極的におしすすめられなければならないと思う。

## 五、むすび

結論はくりかえす必要もないであろう。すでに随所にさしはさんでのべてきたことにとどまる。それをまとめていえば、

(1) 技術関係語を構成する基礎基本語は、他の領域や分野にも奉仕する単語である以上、一般語いとしての性格をもつていること。特に自然科学関係語いと関連していることがみとめられる。

(2) 基礎基本語では機械・機器具・部品に関する語だけでなく、操作・製作・使用などの作業と仕事に関する語および物質・形状・単位・作用などに関する語も含めて考えること。

(3) 基礎基本語の問題は、それが一般語いとしての性格をもつ以上国語国字問題として重視されなければならないこと。たとえば音字語が圧倒的に多い問題をどうするかなど。

(4) 基礎基本語としてならば、現行国語科教科書における技術関係

語いの、ある程度の習得は可能だということ。

(5) 国語科の語い学習において、技術関係語いを正しく習得するための配慮はまだされていないこと。科学関係教材が少なくないことから、その知識理解の面については多少考慮されているのかもしれない。しかし現行国語科教育が、言語理解の場と領域をばく然とした「広く社会生活一般」ということに解消している結果、系統的な語いの学習はおよそ目ざされていないといわれる。これが国語科の根本的欠陥の一つとして、一般に指摘される点である。

## あとがき

この技術関係語いの仕事をすることになったから、私も中学校の技術教育の学習を何回か参観した経験をもつている。そこで気づいた言語の問題についてのべてみよう。

私がつとも気にする点は、中学校の技術教育が、「ことばの力」を重視してないということだ。たとえば生徒がグループ別に一台ずつのモーターバイクを囲んで、エンジンの学習をしている。生徒は先生に「これはどうするんですか」「ここは？」「こうやればいいんですか」とさかんに質問する。先生は「これ(エンジン)はこれ(工具)で、ここ(エンジンの部分)をこうやる(しめつける、廻す、とりつける)んだよ」と説明する。生徒はたがい「お前は、ここだ」「おれはこれだ」と話しあっている。

機械・機具・工具・作業のし方には、すべて「名まえ」があり、「言い方」がある。学習はそういうことばを正しく使つて、共同で思考したり、教師が指導して、物を使い・動かし・作るつまり技術を正しく習得することにあるのではないか。



日本語の代名詞は便利でよく使われるが、論理的科学的に物を考

えるとか話しあうとか、共同で考えることには適していない。ごまかしとアイマイが多い。しかも国語研究所やその他の調査によると、直接生産技術に従事する者ほど代名詞と「ハイ」をよく使い、読み書きの能力も低い。この事実をおかしいと思うよりも、当然だと考える者がまた少くない。国語教育関係者にも多い。こういう事実と考え方が「日本の教育の民主化」をさまたげる原因になつていないだらうか。

技術教育を正しいことばで指導し学習していない結果は、労働の生産性とか労働の科学を理解させることも充分でないといつてよいかもしれない。技術教育と言語活動・能力が無関係だとか、別別にしか指導されない現状が大げさにいえば、日本の社会と教育の現実の姿なのだ。私たちの仕事もこれではいけないというところから出発したいと思う。

(国学院大学文学部講師)

(二六ページよりつづく)

そのばあい、Iの問題については、家庭科は教科として本当に必要であるのか、という最初の出発点にたつて、わかりきつたこととされていることにたいしても検討していかなければならない。

IIの問題については、与えられた指導要領をどう処理するかという研究ではなく、実際の教育現場から導き出された経験と理論をふまえて、小・中・高が一体となつた「私たちの研究会」をどしどしつくつていかなければならないことだと思ふ。

(東京都立広尾高等学校)

——新刊紹介——

## 学習指導の最低必要量

松 永 健 哉 著

学習指導の最低必要量(ミニマム・エッセンシャルズ)の問題は今日の日本教育の大きな課題で、まだその解決はなされていない。学界をはじめ、教育実務家、労働者、民衆の討議と科学的調査に基づいて、今後真剣に考えられなくてはならない問題である。本書はそうした客観的な資料や考察によつたものではない。著者は「一個の信念の書」(40ページ)といつてるように、かなり主観的に説述されている。それだけに幾多の問題点をはらんではいが、一つの発言として傾聴するに足るのである。著者は「はしがき」の中で、「この大胆な発言に対して多くの疑惑と反撥が起るであろう。筆者はそれを期待する」といつている。問題を投げかける意味で、実践現場の立場から発言しているといえよう。教科書のことを取り上げている点だけ見ても、急所をついていと共に問題をもつている。多くの人に一読をすすめた書である。

(価二〇〇円、同学生発行) (池田生)

## 職業家庭科教育の展望

(定価 一五〇円 送料一六円 本連盟編)

戦後から今日に至るまでの文部省の通牒などを資料として、その動きを示しながら、本連盟独自の構想とプランを打ちだしたものです。

## 職・家・め・い・そ・う

編集部が会員のナマの声を、とよびかけたところ、タチマチひびきが帰ってきた。ときは四月、百花百鳥に和して職家もいよいよめいそうする。鳴争はまた瞑想をへて、ついに名想を生むだろう。やがてこの欄こそが、本誌と本連盟の巨大なダイナモとなりますように……

### 現場を強める

#### 研究組織

有田稔

この間、ある職場会で教組の「教研活動がなぜ不活潑なのか」「活潑化させるにはどうしたらよいか」という提案にたいして討議した。各自それぞれの立場から組織の不備をつくもの、研究会に出席するのに校長の理解がないとか、会員の声がとりあげられないとか私たちには研究のための余裕がない等々の意見が盛んにのべられた。これらの意見はすべて肯定されてよいものばかりであろう。しかしこのような場合、えてありがちなことであ

るが、その原因を他においてその内面的なものを考えることを忘れがちである。

現場の教師が日日の実践活動をしなから、別途に研究は研究として行うことは容易なことでない。だからといって、別に研究する時間がないとする理由は了解に苦しむ。われわれの実践活動には常に研究が併行してなされる。日日の実践が反省研究され、明日への計画となり、さらにまた実践へと進展する。あるいは日日の積み重ねがある時期に整理反省され、さらに研究実践へとたゆまない努力によるものであることを認識しなければならぬのではないか。私は教師自身の自覚、意欲情熱というものについて疑問を持つものである。

また「われわれ現場教師は多忙だ！ 研究する余裕がないのだ」とする考え方があたりまえなのか、消化する努力さえも必要としない。てつとり早くすぐ使える、すなわち指導虎の巻ともいえるべき研究物を手に入れることを考えている傾向が強い。もつとも安易な考えによる要求である。

連盟の会員に継続性がない、意欲がないという原因の中にも、これらの点がその一つとあげられるのではないだろうか。このような

会員が多いとすれば、連盟の研究活動も空転せざるをえないであろう。杞憂でなければよいが、しかし私はわれわれの仲間には少くともこれらを含めた人がいることを認めざるを得ない。

連盟の研究活動をより一層活潑化させるにはどうしたらよいか。それにはあらゆる角度から検討され研究され、その方法を見出したであろうが、私のもつとも強調したい点を一つ申しあげてみたい。

連盟の組織活動方針の提案に対して何ら不賛成を唱えるものでない。連盟が成長するためには、幾多の苦悩や脱皮を重ねなければならぬということは当然のことであると考えている。提案された中に組織のことがとりあげられていたが、私はつぎのような考え方をしている。

まず連盟の研究活動を区分して、その一は連盟自体の研究活動、その二は連盟が直接指導援助する面として支部の研究活動と、支部の結合する地区の研究活動、その三は会員が所属する学校内での同志的なサークル活動と学校全体を一つとする研究活動とする。この三は会員があくまでも自主的に活動する面で連盟は間接的に指導援助する（直接に指導で

きれば尙更よい)。学校内でのサークル活動ならびに学校単位の研究活動が全然なされていなく、か、されていても不活潑であるといふことに對しては前にもべたように、これらは現場教師自身の問題として解決を図るより外はないと思う。連盟の側面的な援助活動がなされるとしても困難が多いのではないか。したがつて会員となる意欲のある者同志の結合すなわち各学校の中から同志となり得るものが結合された支部の結成と育成につとめ、この研究活動を連盟の研究基盤とする。一つの支部は十名内外のもので編成され、必ず一つの研究テーマを持つ。また支部会員はそれぞれの所属の学校内で、研究意欲を高める役割りを果たすとともに研究活動の推進力となる。またそれぞれ異なる研究テーマを持ついくつかの支部の結合を一つの地区とし、地区としての研究活動を推進していく。さらには地区の研究活動を結集して連盟の研究活動とする。そのような研究活動があつてこそ、本来の産業教育の研究も可能であり、かつ目的にそうことができるのではないだろうか。

(青梅市第二中学校)

## 地方組織の確立を

塩 沢 尙 人

一、職業・家庭科教育に真正面から取り組んで客観的な立場で研究している機関は、本連盟において他には少いのではないかと思う。連盟のたどつてきた足跡をみると、実に冷静に累積研究を重ね、本科の確立に尽されてきた業績は大きい。

二、運営面を小生なりにみると、どうした理由か、研究同好団体などに利用はされるが、利用した所との連りがブツツリ切れているように感ずるがいかん。利用する団体の反省すべきところか。とにかくがいに發展する方途を講ずべきではなからうか。

三、地方組織の確立強化を本格的に検討すべきではないか。本部のみ動いても、地方組織はどうも振わない。研究をもつと地方におろして、地方校との協同研究にもつていつたらどうか。本部研究が具体化されれば、実践研究をひきうける学校もできるだらうし、本部研究も地についてくる。地域単位に同一課題の研究がなされるようになると、横の連がりもついて活気づくのではないか。

四、三のような方法により、本部研究と実践研究が雑誌の中心を占め、各地の反響が年二回の研究会にもちこまれるようになれば、雑誌もいきいきとしてくる。また本部よりもつとも問題となる研究課題をかかげて、会員を適当に指名して意見を發表させるなどは、会員自体にも勉強となり、連盟会員としての意義を高めることになるのではないか。研究校(会員の学校を中心に)の研究概要の紹介、会員へのアンケートなども面白くないか。会員の学校での研究ケースと問題点など順次発表し、本部や会員の意見など聞くのも面白いと思う。

以上、日頃疎遠で批評などおこがましい次第で、全く偏見に過ぎないと思うが、気づいたまま述べてみた。批評しつつ、自分自身を省み、いよいよ今後連盟とともに前進したいと念ずるものである。

(信州大学教育学部付属長野中学校)

## 教研大会家庭科

### 部会ノートから

清 水 薫

研究テーマの題目をみてまず気がついたこ

とは、『小・中・高の家庭科教育をどう進めるか』という題目の多かつたことである。これは今度始めて独立部会としてもたれたことと、教科ごとということがこれも第一回目だったことによるのかとも思うが、討論が進むにつれて成程とうなづかれた。

研究討論の小主題としての六問題のうちの第一主題『家庭科教育の現状』が各代表から発言され、「家庭科の不振」という一言がいろいろの原因というかたちをとつて出されたのである。

「家庭科の不振これをいかに解決するか」——ということが当面する最も大きい問題点で、「家庭科教育まつたく不振」とまでいわれている現状ではあるが、その原因としてあげられているものをみると、入学就職のための家庭科の軽視、施設・設備の貧困などの外部的な条件と家庭科教師自身家庭科にたいして抱いている考え方——家庭科の先生はイヤだ——それを裏づけるような「あなたナゼ家庭科なんかの先生になつたの？」という社会一般の評価としてあらわされる家庭科教育の内部的な条件となり、前者の条件が家庭科にたいする関心や魅力を失わせることにつながり、後者が教師自身の研究意欲喪失・自信喪

失などにつながってくる。

外部的な条件はもちろんたいせつだが、内部条件をまずはつきりさせることから、現在の家庭科教育の問題（地域社会や父母の要求の問題・指導要領の問題・系統性の問題）を見つめてみてはどうだろうか。

教科の教育目標その基本的な性格がアイマイであるなどということは、おかしな話であるが、これが現状であるところに、今日の家庭科教育の根本的な問題点があるし、今までの外部の条件が家庭科不振の原因のすべてであるように思っていたこともあらためて考えてみなければならぬことである。

第二主題の「家庭科の基本的な考え方」でこの問題の究明は十分に行われず、ことばとして自明のまま通過してしまふような散発的な討論であつた。

新しい家庭科には、◎近代性をよりこまなければならぬ。◎近代化を促進する教科でなければならぬ。◎民主的な人間関係をこそつくりあげるものである。◎人間尊重の立場から生活様式を合理化すべきである。◎家庭は社会の基礎単位であるから、家庭の貧困は社会の貧困との問題をはなれては存在しない。この矛盾に目をむけさせる教科としてゆ

きたい。◎それは、社会科の問題ではないか。家庭科は家庭の問題をとりあつかつていければいいのではないか……など。

これらの討論の中から、目標は「よき家庭人の育成」でこの目標達成のためには普通教科男女必修であることが再確認された。

結論は出されたけれど、戦前の家庭科教育にたいする批判、今日の家庭科教育の課題、その基礎としての家庭生活にたいする批判、民主化と合理化との関係などについて、もつと本質的な討論がなされた上での結論であつたら、今後の勉強に大いに参考になつたことと思う。このことは私たちの今後の問題としたい。

第三・第四・第五の小主題で、具体的な問題が討論されたが、やはり問題は、第二主題が土台であり、今日の家庭科教師がまずやらなければならぬことは、I家庭科にたいする基本的な考え方を明確にする勉強をすること。II現場の教育の実践の中から理論を導き出すこと、このことは第五次教研から第六次教研への課題として、「現場の実践から、ぜひこれだけという学習内容をおさえて、自分たちで指導要領をつくつていこう」と申しあわされた。

(二三ページにつづく)

## 家事合理化の時代

近代技術の眞の社会的特質は、それが社会的差別をなくすことである。その直接の目標は有効なる仕事である。その用いる手段は標準化すなわち一般的なるもの、および典型的なるものの強調であり、約言すれば節約である。窮局の目標は閑暇であり、他の有機的能力の解放である。  
(マンフォード、「技術と文明」)

現代——とはどんな時代だろうか。このことについて、これまでどれほど多くの人たちが解答してきたことだろう。

昨年八月末の朝日新聞の学芸欄は、こんな響き出してフランスの評論家ジークフリードの行つた「現代」の分類にもとづいて、われわれの住む「日本の現代」を興味ふかく特徴づけて示していた。機械が単に工業生産を促すだけでなく、われわれの文明の性格を完全に一新しつつある時代である。——「現代」の著者ジークフリードはこの本の冒頭でこういつている。

個人の努力に代つての集団的行動の登場、質に対しての量産の代置、筋肉いなしの働きさえもおしのけられて、機械がそれに代

る。アメリカばかりではない。「長い間、台所を祭壇のように隔離し家事を機械化から護りつづけてきた」フランスでさえ「今や驚くべき速さで家事の合理化が進み、住居の観念や世帯道具の構成に革命をもたらしつつある」と彼はいう。

かくして——彼によれば——現代は「家事合理化の時代」である。

いまや家庭は合理化され、ジョンフォード監督えがくところの、開拓時代の荒くれ男が殺伐なところのやすらぎを、やさしい女の手づくりの一杯のコーヒーでいやす、あのみなれた平和な風景は、永久に過去のものとなつてしまつたらしい。螢光燈は人びとの「夜」をうばい、おちつけない若い人びとは自動車を馳つて外出する。

☆ ☆

ところで、日本はどうか。心配にはおよばない。幸か不幸か私たちのまわりでは、家事の合理化はまだまだである。古いしきたりや昔なつかしいタタミの生活がデンとして私たちの半分以上の時間をささえている。最新式テレビといえども、ここではまだ借り物の域を出ない。かえつてあまりに落つきすぎ、非合理的すぎて、おちつけない若い人びとは、自転車を馳つて街にとびだす。

それでも「合理化」のきざしはおそろしいテンポで私たちの足ををあらつてゐる。

電気センタク機、テレビ、トースター……

農村では、田を手でひつかきまわすお百姓でも、ちかごろではモーター、バイクでないと「つきあい」が悪いという。

「合理化」のちぐはぐな進行、とりわけ、生産行程と消費行程のその不均衡な進行ぶりは、はたしてそれがほんとうの「合理化」であるか、どうかを疑わせるに充分である。

資本主義国の技術発展の跛行性の理論を説明したルビンシュタインは、

「個々別々の部門にかぎられており、それゆえ不完全でかつ中断される、たくさんの、おくれた機械化されていない企業や生産行程が、機械化された部門とならんでなお存在しており、それらは、信じがたいほどの労働者の搾取と殺人的な労働の強度化によらなければ競争にたえてゆくことができない」

とのべた。後進資本主義国日本に住む私たちは、これに加えて「家事合理化」の跛行性をも類推してよさそうに思われる。

応接用やトイレ用のスリッパを一日のうち何回となくぬいだりはいたりする家に住み、靴下に下駄をつつかけて、漬物の桶をかきまわす。そして農家では、朝めし前に二里あるく。

☆ ☆

さてそこで、ひたむきな、あまりにもひたむきな家庭科の先生がたはこのムダをなくそうとけんめいに努力する。台所ではたらく主婦の一回の食事のための動線が宿題になり、合理的な燃料のつかい方がくふうされる。

それもけつこう。

だが、こうした「生活改善」によつて生み出された労力や時間はいつたにどう使われるのだろうか。

田の畔はたにしゃがんで、赤ん坊に乳をふくませたり、煙りにむせながら暗い台所でワラをもやしながらごはんをたく時だけが農家の嫁にとつて唯一のいこいの時間だったという事態がまだまだ残つている現状である。

人間の意識や社会のしくみを変革することにつながる家事の便利化は結局のところ農家の嫁をいこいの場所から追出して、はげしい労働に馳り立てることになつてしまふ。

もうひとつ。昼間、田んぼの土をひつかきまわしたその手で、夜は、田の字型の草屋根の家の中にデンと据えられたテレビのスイッチをひねつて、「お笑いを一席」楽しむことを「合理化」の時代として、喜んでいられるだろうか。テレビでなくともよい。農業会社や肥料会社の温泉招待つき宣伝のおかげで買いこんだ新式の噴霧器や金肥が副業的部分に局部的に取入れられることはあつても、イネやムギの生産過程全体のなかに正しく位置づけられることは少い。

つまり、「合理化」の結果だけが、流行にしたがつて娯楽や金もうけのために取入れられても、しきたりやカン、ヨツによつて営まれている生活や生産のしくみ自体を前むきに変革してゆくことには役立つていないことが多いのではないだろうか。（ジークフリード

著、杉捷夫訳「現代」紀伊国屋書店刊 二七〇円）

（やまぐちとみぞう）

主催 高田市中学校長会  
後援 産業教育研究連盟

## 全国職業・家庭科研究大会

——おしらせ——

とき 八月六～八日  
ところ 新潟県高田市

中学校産業教育の一環である職業・家庭科

教育の振興が強力に要請される折、昭和三十  
二年度より改訂職業・家庭科学習指導要領に  
よつて新しい教育内容が取りあげられて教育  
実践がすすめられることになりました。現場

のわれわれが、これを参考として学習指導の  
実際を展開してみようとすると、幾多の問題  
や、悩みが生じてきます。この時に、職業・  
家庭科教育に関心をもつ全国教師各位が、一

堂に会し、それら現場の切実な問題や、実践  
計画を持ちより、お互いの実践や、悩みを語  
り合い、その経験を交流し合い、子供の成長  
をとげさせるための教材選定や、よりよい学  
習指導計画について検討することができま  
すならば、本教科の一層の振興がはかり得るも  
のと考え、中学校創設年記念の行事として、  
高田市中学校長会主催、産業教育研究連盟の  
後援のもとに本研究大会を開催することにな

りました。

本大会については前号にも予告しまし  
たが、連盟会員各位の多数の御参加をお待ち  
します。

◎研究発表および資料提供者の募集

「主題」現行の教材について、その構造と系  
統性を明らかにするとともに教材を  
整理し、意味のあるものを厳選する。

以上の主題のもとに、全国教師各位の中か  
ら、当日研究発表および研究資料を提供して  
下さる会員を募集し、かかる会員の御協力に  
よつて、大会をさらに意義あるものに致した  
いと考えています。産業教育研究連盟会員各  
位もふるつて、研究発表に応募下さるようお  
願ひします。

発表希望の方は左記募集要項により申込み  
下さい。

1、発表人数 申込会員について分科会発  
表を認め資料を提供してもらおう予定。  
全体会場発表……五名程度。申込み者の  
中から主催者が依頼する。

2、申込み方法

(1) 研究発表者または団体名

個人は、住所・氏名・学校名、団体は、  
住所・代表者名及び発表者名

(2) 研究題目名および提供資料項目

研究主題にその内容であれば、各自、自  
由に選定してよい(予想される研究発表  
題目、および研究協議題目を参照のこと)

(3) 研究発表概要

研究発表の内容の概要を八〇〇字程度に  
まとめる。

(4) 発表者の学校の社会的環境の概要

①地域の状態(都市、農村、近郊、農山  
村別) ②生徒父兄の職業状態(純農村、  
半農半商、公務員八〇%等) ③学校の規  
模別(学級数) ④職員組織(職業担当人  
員担当群) ⑤週配当時間(三時間または  
四時間か) ⑥施設の程度(五段階評定に  
て)

(5) 団体で申込の場合は研究をまとめるため  
に想定した社会的環境を記入する)





一〇、家庭科の性格の再検討。

一一、女子のみに必要な家庭の教育内容とは何か。

一二、教材の学年別配当上の問題点はこれらどのように処理したか。

一三、各群にそれぞれ特色があり、取扱い方に差があるが、学習指導上どのような方法を研究しているか。

一四、一つ一つの教材について基礎的技術、社会的経済的理解、態度、他教科との関連等の観点からどのような範囲と深さを考えて代表的な教材を選定するか。

一五、第六群の教育内容についてはどのような考えでとりあげ指導したらよいか。

これらの例示題目が、このたびの大会で研究発表され、また本大会参加会員によつて研究討議され、建設的な意見が開陳されるであろうことを願つている。

### 大会の概要

#### 会費

・ 参会費一人三〇〇円（大会開催要項、出席者名簿、参考資料代）

・ 大会参加申込先

新潟県高田市立大町中学校

職家研全国大会係

期日 昭和三十二年六月二十日より七月十日  
までに申込みを受けつける予定

宿舎 見学案内

宿舎の斡旋を希望される方は六〇〇円で申込みを受けつけます。

見学場所予定地

(一) 原子・電気大博覧会

(二) 高田スキー発祥地金谷山―春日城跡（上杉謙信―五智国分寺）

(三) 佐渡ヶ島

(四) 妙高高原国立公園温泉郷

その他

・ 学習用具の展示

・ 実際に御研究になつている教具、教材で当日展示御希望の方はその旨御連絡下されば便宜をおはかり致します。

・ 研究大会の成果をまとめて記念集録を発行する予定です。

・ 研究大会要項および案内は改めてその詳細を六月中旬に御手元に送付致します。

### 編集後記

▽新学年の希望にあふれた目まぐるしさの中で、日日御活やくの事と存じます。

本連盟の後援にかかる、夏の全国職・家科

研究大会（高田市）のスケール・柱ぐみがいよいよおいはつきりして来たようです。この大会をこそ、自主的な現場と現場のつながりによる、問題意識あふれるものにとしたいと、連盟本部がわも大いに意気ごみを見せています。とくに会員の皆さんの、気負い立つた参加を期待します。その大会への一投石として、中村氏の問題提起をねがいました。きびしく説きぬいていただきたいと思ひます。

▽新・学習指導要領をどう受けとめるか、おいおいと論議がキメ細かくなつて来ました。この特集がそのまま毎日の実践に生きることやを思うと、編集子もつい肩に力が入ります。さらに現場での検証がハネ返つてくれば、編集部はもう踊り上つても足りません。

▽たちまちにして、職・家・め・い・そ・うが生れました。やつぱり、連盟会員間にこもつていゝエネルギーの高さを、誇らずにはいられません。どうぞこれからも、何の気がねも遠慮もなしに、ガミガミワイワイとお寄せ下さい。編集部へのお小言を歓迎します。編集についてのスバラシイアイデアを、一そう歓迎します。

× × ×

(M)

☆ 入会のおすすめ

新年度をむかえて、本連盟の主旨に賛同される方々の入会をおまちしています。

入会御希望の方は、氏名(または学校名)、住所に会費をそえてお申しこみ下さい。

なお、会費は振替でおはらいこみ下さい。

会費 年 四〇〇円、半年 二〇〇円

(機関誌代、送料をふくむ)

申込先 東京都目黒区上目黒七の二一七九

産業教育研究連盟

振替 東京五五〇八番

会誌既刊分在庫品

昭和29年1月号・2月号・3月号

5月号・9月号・10月号

11月号・12月号

昭和30年1月号・2月号・3月号

6月号・7月号・11月号

昭和31年1月号・2月号・3月号

4月号・5月号・6月号

7月号・9月号・10月号

△以上各冊二〇円(送料3冊まで4円)

昭和30年8月特集号(送共54円)

農業的分野の設備運営(中村)

工業的分野の標準(鈴木)

工業的分野の指導法(稲田)

昭和31年8月特集号(送共54円)

栽培学習における作業の段階と指導の改善

その設備基準(第一群研究委)

第二群共通の学習内容とその設備基準(表)

(第二群研究委)

昭和31年9・10月号(送共24円)

自主的な職業科の教育(林)

問題工員群像(その2)(後藤)

昭和31年11月号(送共34円)

職業科教育の研究をどのようにすすめるか

(長谷川)

中学校の自動車運転(吉田)

地域社会と産業教育(清原・鈴木・中村・有田・刀禰)

昭和31年12月号(送共34円)

家庭科教育における思想の問題(桑原作次)

家庭科研究ノート(西尾幸子)

第五群のとり扱い(池田種子)

第二群学習指導案(男女)

埼玉県大原中学校

昭和32年1月号(送共34円)

転換期にたつ学校職業指導(清原)

職業指導科設置論について(後藤)

学校職業指導の目的再検討(鈴木)

社会教育における産業教育(山口)

組合の教研活動について(伊藤忠彦)

昭和32年2月号(送共34円)

労働意欲を失わせたもの(後藤)

オートメーションの正しい理解(稲田)

産業教育運動の強化(池田)

昭和32年3月号(送共34円)

生産技術教育の発展のために(清原)

明日の現場研究に期待する(本田康夫)

新学習指導要領をどう受けとめるか

第一群(草山) 第二群(稲田)

文部省解説資料(第一群)

△以上注文は前金で発行所まで、(本誌は書店販売をしません)

教育と産業・四月号 (通巻第六十一号)

昭和32年4月5日発行

定価三〇〇円(送料四円)

編集者 村田忠三

発行人 田忠三

発行所 産業教育研究連盟

(振替東京五五〇八番)

本部 国学院大学教育学研究室内

▽書店販売せず直接注文のこと。

▽会費前納の会員に毎月送附する。

▽会費年四〇〇円・半年二〇〇円

▽入会者は会費を添えて申込せよ。

會員名簿(一)

北海道

札幌市立北辰中学校  
 北見市立上常呂中学校  
 雨竜郡深川中学校  
 枝幸郡中頓別町中頓別中学校  
 常呂郡留辺蘂町温根湯中学校  
 勇払郡穂別村穂別中学校  
 紋別郡遠軽町遠軽中学校  
 蛇田郡喜茂別町中学校  
 枝幸郡中頓別町中頓別中学校  
 常呂郡置戸町秋田公民館内  
 北見市立上仁頃中学校  
 小樽市梅ヶ枝北山中学校  
 余市郡余市町入舟町三七四  
 足寄郡陸別町小利別中学校  
 常呂郡常呂町川沿中学校  
 青森県  
 弘前市千年中学校  
 青森市大字新田字扇田二三  
 西津軽郡岩崎村岩崎中学校  
 秋田県  
 平鹿郡浅舞町浅舞中学校

佐々木昭雄  
 広崎 敏雄  
 村上 直定  
 佐藤 初音  
 中野 哲郎  
 藤川 一  
 山田 雅英  
 斎藤 正美  
 畠山 輝夫  
 大垣内重男  
 神木不二家  
 瀬越 春男  
 亀山 豊彦  
 長内 光栄  
 七戸 義雄

平鹿郡館合局区内協和中学校  
 能代市立能代第二中学校  
 平鹿郡吉田村田ノ植  
 北秋田郡鷹巣町県教育庁出張所  
 河辺郡河辺町岩見三内中学校  
 仙北郡千畑村千屋中学校  
 仙北郡六郷町六郷中学校  
 山本郡山本村森岳字木戸ノ沢  
 大館市立第一中学校  
 仙北郡大曲市立大曲中学校  
 岩手県  
 水沢市立佐倉河中学校  
 盛岡市岩手大学職業研究室  
 水沢市立常盤中学校  
 盛岡市立本宮中学校  
 二戸郡島海村島海中学校  
 岩手郡岩手町五日市中学校  
 一関市中里太平洋山中里中学校  
 盛岡市岩手県教育庁内  
 久慈市待浜中学校  
 山形県  
 東田川郡八栄島村小中島字赤沼  
 西村山郡高松村八畝  
 寒河江市寒河江町南町一七九  
 山形市緑町二丁目七の二〇

運沼 繁  
 長沢 勇治  
 後藤 哲郎  
 二木 豊示  
 越後谷リヨ  
 畠山 育  
 湊 晴直  
 高清水清栄  
 加藤 博康  
 三浦 実弘  
 佐野 醇  
 千田カツ子  
 吉田 吉男  
 吉鹿 力  
 菅原 栄  
 徳山 満  
 二又留三郎  
 奥山 金之  
 小野 博章  
 安孫子喜美夫  
 荒井 清

山形市宮町第五中学校  
 同上  
 長井市寺泉三七三六  
 酒田市荒瀬町二二  
 鶴岡市鳥居町乙九  
 最上郡戸波村古口中学校  
 同上  
 鶴岡市豊浦中学校  
 宮城県  
 仙台市中田町中田中学校  
 気仙沼市大島中学校  
 仙台市成田町一の一  
 福島県  
 福島市立北信中学校  
 福島市東浜町二五七  
 磐城市立小名浜第一中学校  
 大沼郡会津高田町下中川  
 伊達郡月館町布川字西原  
 喜多方市立慶徳中学校  
 福島市浜田町福島大学学芸学部  
 大沼郡本郷町本郷第一中学校

居駒 久子  
 長谷川 清  
 青木 常富  
 池田 宗機  
 中野 喜逸  
 小林 秀一  
 斎藤 怜  
 石塚 正  
 宮城清四郎  
 白嚙 弘之  
 鹿野 順子  
 菅野 健蔵  
 古和口玲子  
 横山 重郎  
 阿部 武夫  
 佐原 甫  
 阿部 昭八

連絡先・振替番号変更のおしらせ  
 こんご連絡への連絡、送金、入会申込等は  
 必ず左記へ  
 連絡先 東京都目黒区上目黒七の二一七九  
 振替番号 東京五五〇〇八番

待望の事典成る!!

# 職業科指導事典

産業教育研究連盟編集

編集委員

清原道寿 長谷川淳  
後藤豊治 鈴木寿雄  
中村邦男 稲田茂

産業教育研究連盟が、学者と教育実践家の共同研究により、三力年の日子をかけて、中央産業教育審議会の建議と改訂指導要領を検討し、正しい産業教育の一環としての職業科の在りかたを具体的に打ちだした職業科指導書の決定版!

諸家絶讃

東大教授 宮原誠一  
労研所長 桐原葆見  
農林省 加藤俊次郎

## 目次

### 第1章 職業科の原理

- 1 中学校と産業教育
- 2 産業教育と職業科
- 3 職業科の性格と目標
- 4 他教科と職業科
- 付1 職業・家庭科教育発達史
- 付2 アメリカのインダストリアルアーツ
- 付3 ソビエトのポリテフニズム

### 第2章 職業科の学習内容

- 1 総説
- 2 農業的分野
- 3 工業的分野
- 4 商業的分野
- 付1 水産的分野
- 付2 職業生活の理解

### 第3章 職業科の指導計画

- 1 総説
- 2 指導計画の例
- 3 年間計画と週計画
- 4 学習指導の組織と運営

### 第4章 職業科の学習指導

- 1 総説
- 2 各分野の指導案例
- 3 学習評価の方法

### 第5章 職業科の施設・設備

- 1 各分野の施設・設備の基準と運営管理
- 2 施設・設備の充実法

### 資料

- 1 参考文献
- 2 職業科関係法規と解説

B5判 544頁  
 クロス装函入  
 函版 550枚挿入  
 定価 2,000円  
 送料 60円

東京都文京区  
高田豊川町37

国 士 社

振替・東京  
90631番